

グズでのろまで……

どこやらの国の防衛大臣、いかにもノー天気で、国の防衛どころか、自分の防御に専念でしどろもどろになりながらの国会答弁の連続で、「もしもし」はないやろ。電話やないねんから。元自衛隊の質問者まで転げまわって笑い出した。……屋山太郎さんが、「偏差値の低い人を責めてはいけないが、事が国の防衛だからねえ」

いつぞや、ビッグコミック連載の「総務課山口六平太」の話を書いた。いつも心穏やかになる物語である。

この六平太の上役の係長が有馬という。六平太の他に宮本女史という才媛がいるが、その他の3人は可もなく不可もなし。優秀でもなければそれほど無能でもない。彼らの有馬係長への評価。「上に媚びへつらい、下には横柄。」「陰険でセコくて口やかましく、自分には甘く他人に厳しく、仕事もいい加減で（仕事を部下に、多くは六平太に）丸投げする。」自分が責任をとらずにすむからである。

ドラえもんでいえば、スネ夫タイプ。

どこの会社にもいてますやろ、こんなに漫画ほど極端でなくとも、よう似たタイプの人間。部下の手柄は自分の手柄。自分のミスは部

下のミス。……六平太にはともかく、部下全員に嫌われている。

この有馬係長のしみじみとした実感。

ある日、宮本女史は有給休暇。ところが、他の3人が「風邪」で当日に休むと連絡があり、いわば兵隊のいない戦場みたいなもの。有馬に言わせれば、「全員が同じ日に休むな！」また、この日を狙ったように「雑用」が次々と持ち込まれる。(実際には、「雑用」ではなく、それが総務の仕事であり、普段は全員で処理しているから、有馬ひとりが手抜きしても目立たないだけなのだが。……だからこの日は有馬に仕事をせよ、とでもいう日だっただけである。)

仕事が一段落したとき、パニック状態になっていた有馬が少し落ち着いてひとこと。「グズでのろまでブスで、気が利かなくとも、いなければいけないで不便なものですね」と課長に語る。課長も普段はそんなことを言う人ではないのだが、「そ、そうだね」と相槌をうつ。

ボクは会社のことについては良く知らないのだが、どこの社にもいてますやろ、こんな手合い。仕事をしているようであり、実は忙しそうにしているだけの人。蟻の例えがある。実際に仕事をしているのは2割程度らしい。

先日もある会でこんな女の子をみた。会場全体を見渡しながら、スタッフの見落としをさがしていたのだが、わずか3~4メートル離れたところからわれわれが手をあげているのに、まったく気が付かない。……どこ見てんねん！ 病院やコンビニや銀行でも同じ。計算は遅いし、釣銭は間違えるし、ホンマ、ノロいねん。

そやけど、まあこんなもので、並やねんで。全員がこちらの思い通りに優秀だったら、「本当に優秀な子(人)が目立たなくなる」から、ちょうどいいのだろう。大事にされる人は大事に育てなアカンねん。もう初めから、優秀グループと無能ないしは並グループとにわかれてるねんで。……これに付け加えることもないが、無愛想だとか、すぐに拗ねるとか。敬語を使えないし、電話番号もろくにできない。

10年ほど前に、「まれに見るバカ女」という本がでている。50人ほど列記されたものだが、この人を含むのは反対だ、というのがひとりもいなかった。みんな同じことを考えてるねんネ。

2012.05.25